わかくさ

中井町教育委員会だより 第５９号
平成２３年１２月１５日（木）
発行責任者　中井町教育委員会
問合せ先　教 育 課 （吉 田）
☎　８１－３９０６

県教育委員会表彰！　＜中村小学校PTA＞

中村小学校ＰＴＡは、学校公開日に「親子ふれあい活動」を企画して、全会員・児童・地域住民が一堂に会して交流する場を設け、ものづくりやゲーム等、親子のふれあいや地域との絆を深めるために積極的に取組んできました。

このたび、こうしたＰＴＡ活動の取組みが高く評価され、11月21日、県庁において神奈川県教育委員会表彰を受けました。おめでとうございます。

金子　和夫 会　長（右）
森　　聡　副会長（左）

県教育委員会表彰！　＜校医　町田隆弘先生＞

内科医の町田隆弘先生は、26年の長きに亘り、町内の小・中学校の学校医として子どもたちの心身の健康の保持増進に寄与されました。

このたび、長年の功績が認められ、12月1日、神奈川県教育委員会より表彰されました。おめでとうございます。

＜学校医＞…学校保健安全法に基づいて各学校に設置されています。学校における定期健康診断をはじめ、学校行事や就学時の健康チェックや健康相談等を行います。また、感染症の予防等についても専門的な立場で指導助言を行います。

読書の日のつどい

11月3日（木）10：00
環境改善センターホール

１１月３日の『中井町読書の日』にあわせて、環境改善センターホールで「読書の日のつどい」を開催しました。読書活動推進委員や町及び園・学校の関係者、読書推進ポスター・標語コンクールの被表彰者、町民の皆さんの参加を得て、読書推進ポスター及び標語コンクール入賞者の表彰及びアトラクションが行われました。表彰式に続いてのアトラクションでは、井ノ口保育園の園児（５歳児）１３名がペープサートによる英語劇の発表を行いました。また、中学校の図書委員会の皆さんは図書便りを使った本の紹介など、日頃の委員会の活動や取組みについて報告しました。

最近、「読書離れ」という言葉をよく耳にしますが、「読書は心の栄養」とも言われ、子どもたちの心の成長にとって欠かせないものです。子どもに本の読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読む時間を設けたり、大人が読書をする姿に触れさせること等を通じて、１ 人でも多くの子どもたちが本と出合うきっかけをつくり、「読書好き」な中井っ子の輪を広めましょう。

井ノ口保育園児による英語劇の発表

中学校の図書委員による活動の紹介

※前号(12/1 付)の記事の保育園名に誤りがありましたので、謹んでお詫びし、訂正の上、再掲させていただきます。

「地域の人とスポーツを楽しむ」

町体育協会の方々を講師に！＜中井中学校＞

少林寺拳法の部

中井中学校では、町の体育協会の皆様のご協力を得て、６年前より総合的な学習の時間に「地域の人とスポーツを楽しむ」活動を行っています。今年も 12 月３日(土)に実施しましたが、あいにく雨天のため外での種目はカット、卓球とバドミントン、少林寺拳法、ソフトバレーボールの４種目を行いました。地域の方を講師にスポーツを楽しみながら交流を深めました。お昼には体育協会の方々に作っていただいた温かい豚汁にみんな大喜びでした。

午後は、卒業生の重田眞孝氏を講師に「私がスポーツで得たものとは」と題した講演を聴きました。重田氏は、神奈川大学の箱根駅伝選手として復路の9区で区間賞、県代表選手として青森・東京間駅伝に出場する等、輝かしい活躍をされました。現在は、平塚市役所にお勤めです。

重田氏が中学校の陸上部をスタートに高校・大学と長距離走に賭けた青春、その苦労や思いを語っていただきました。

「夢なき者は目標なし、目標なき者は努力なし、努力なき者は成果なし」生徒に『夢を持ってほしい』との熱いメッセージが心に響きました。

重田眞孝氏の講演

≪手打ちそば教室≫ 井ノ口公民館

12 月３日(土)、井ノ口公民館で年末恒例の『手打ちそば教室』を開きました。４回目となる今年も、前井ノ口幼稚園長の相原洋さんを講師に 20 名の中高年の方々がそば打ちに挑戦しました。大半が初心者にも拘わらず、立派な出来ばえでした。早速作ったそばをみんなで味わいながら満足そうでした。

『手打ちそば教室』（井ノ口公民館）

～井ノ口公民館の図書館案内～

井ノ口公民館の図書館では、現在、約２万８千冊の本を所蔵しています。

館内には、新刊についての案内(対象年齢等)や季節の話題となった本の紹介のほか、利用者が心落ち着けて読書できる環境づくりに努めています。１人１回３冊、２週間借りられます。また、県内各地の図書館と相互貸借もできます。多くのみなさんのご利用をお待ちしています。　(祝日及び年末・年始の休みは休館。)

『みんなで守ろう 子どもたちの安全』 危険！ “子どもの飛出しに注意を！”

○ 子どもの交通事故の多くが自宅付近で発生しています。
○ 子どもを交通事故から守るために、まず「交通安全のきまり」を繰り返し教えましょう。
○ 大人が手本を示しながら、「交通ルールやマナー」を守ることの大切さを理解させましょう。
◎子どもは、夢中になると周りのことが目に入らなくなり、＜危険＞の判断ができなくなります。
周りの大人が目配りしながら具体的な場面でしっかりと教え込むことが大切です。
◆地域の皆様には、日頃から、子どもの交通安全に心配りをいただきありがとうございます。
ご存知の通り、町内の道路は車の往来も激しく、一歩路地に入ると狭く入り組んだ道も多く事故の危険がいっぱいです。子どもの安全を守るために、引き続きご協力をお願いします。

大震災の被災地の一日も早い復興をお祈りするとともに、新しい年がよい年でありますように！